

News Release



一般社団法人（非営利型）

所沢市民ソーラー 山宇農園発電所がオープン

所沢市初の市民共同出資による太陽光発電所

農業の振興と再生可能エネルギーの地産地消をめざす

ソーラーシェアリング（営農型）太陽光発電所

2019年12月1日、所沢市藤本市長のご列席のもと、一般社団法人所沢市民ソーラーによるソーラーシェアリング（営農型）太陽光発電所の開所式が行われました。



《ソーラーシェアリング型太陽光発電所建設の経緯》

～所沢市民大学修了生が大きくかかわっている～

一般社団法人 所沢市民ソーラーは、前身の「所沢・自然エネルギー普及研究会」で所沢の遊休農地を活用したソーラーシェアリング事業を志してきた。

2018年6月、三富新田で江戸時代から代々農業を営む山宇農園山崎伸一氏が、ソーラー発電に関心を持っていることがわかり、共同でソーラー発電所を建設する話がまとまった。

*山宇農園には、所沢市民大学22期「日本の農業グループワークチーム」が地元農家調査のため4年前に訪問していた。

2018年6月、所沢市民大学ファーム夏の収穫祭に、山崎氏が来賓参加。山崎氏は、所沢市民ソーラーの理事でもある市民大学ファーム代表からソーラーシェアリング事業相手探しの話を聞き、山宇農園圃場の提供を申し出た。

山崎氏は、近隣の「食の駅所沢店」(下富583番地)に栽培品を出荷しており、そのソーラー発電設備に興味を持ち、「食の駅」を運営する高崎市のファームドゥ(株)農業王国(ソーラーファーム)を見学した経験があった。

そうして、ソーラーシェアリング事業を行うための農地が確定したため、「所沢・自然エネルギー普及研究会」10名で200万円の基金を拠出し、事業運営会社「一般社団法人所沢市民ソーラー」を2018年11月1日に設立。具体的な建設計画作成を着手した。

*この「所沢・自然エネルギー普及研究会」10名の中には、市民大学修了生の会とところざわ倶楽部の「傍聴席」「地球環境に学ぶ」サークルの会員が6名含まれており、その6名が一般社団法人所沢市民ソーラーの社員にもなっている。

そして、東京電力への発電電力買い取り申請、経済産業省FIT設備認定申請を、(株)町田市民電力の協力を得て行い、認可を取得した。

最大の難関は、1級農地の上にソーラー発電設備を設置するための農地法にもとづく許認可取得であった。

当法人品川代表は、所沢市農業委員会と、埼玉県川越農林振興センターに足しげく通い、ところざわ倶楽部特別顧問・東京農工大学名誉教授淵野雄二郎先生の推奨コメントを得て、ようやく本年8月に事業実施の許可を取得した。

並行して、一般市民に「ソーラーシェアリング事業の農業振興と再生可能エネルギーの地産地消」意義を訴えたところ、予定を上回る資金応募が集まった。(資金提供一般市民は26名総額450万円)

*所沢市民ソーラー社員となった上記6名の他、ところざわ倶楽部サークル会員7名から資金協力を得た。

また、所沢市からは「ソーラーシェアリング事業補助金」の認可通知を取得し、所沢市の適用第1号となった。

10月9日建設工事着工 11月30日竣工

12月1日開所式 売電開始

《一般社団法人所沢市民ソーラー 山宇農園発電所 概要》

建設場所 所沢市大字下富字駿河台 327-1 山宇農園内

設備概要 太陽光モジュール 104 枚 ドイツ・ルクサソーラー社製（中国製造）

総出力 37.44 k w

年間予想発電量 39,243 k w h （およそ戸建て住宅 10 軒分）

架台面積 503 m² 架台高さ 3.5m

遮光率 40.17% （すきま 60%から太陽光を畑に受ける）

建設費 総額 690 万円

以上

（文責 中原幹男）